

「こんななごや本あります」バックナンバーリスト



2024年6月改訂

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
愛知縣飲食料品類卸、小賣公定協定價格表		中央飲食料品商報社	1940年	昭和15年発行の調味料から飴、佃煮、海苔といった様々な飲食料の卸売価格・小売価格などが書かれている資料です。資料の中には「タピオカ」の記述もあり、当時どのように食べられていたのか気になります。
愛知県下公私立図書館記念写真帖	愛知県図書館協会／編	愛知県図書館協会	1928年	愛知県下の公共図書館、私立図書館の写真帖です。昭和2(1927)年の愛知県行幸を記念して作成されました。撮影の時期は明記されていませんが、当時の県下各地の図書館の様子がわかる貴重な資料です。大正12(1923)年に開館した名古屋市立図書館や現在の名古屋市西図書館の前身の名古屋公衆図書館をはじめとした名古屋市内の図書館の写真も、もちろん掲載されています。
愛知縣唱歌	大和田建樹／作歌	永昌堂	1911年	明治後期に大量につくられた地理教育唱歌。「歌による知識の修得」を狙いとし、地理の内容を歌詞に折り込んだものでした。愛知県に関する地理教育唱歌のうちの1つがこの「愛知縣唱歌」。歌詞を読むと、明治時代の名古屋や県内各地の特徴がわかる！かもしれません。
愛知縣商品陳列館案内		中村寫真館	1911年	明治43(1910)年3月に竣工した愛知県商品陳列館を紹介した本です。愛知県商品陳列館は、県内の商工業振興のため設立されました。館内の写真や出品目録が掲載されており、織物・陶磁器などの商品見本が数多く展示されていたことが分かります。
愛知県勢図絵 1951年2月	愛知県総務部 統計課／編	愛知県	1951年	昭和26年に出版された、愛知県の統計資料です。当時の県政のデータが目で見ても分かりやすいよう、グラフやイラストで工夫して表現されています。色使いもカラフルで、デザインの観点から見てもおもしろいです。
愛知縣の毛織服地		愛知県	1937年	昭和12(1937)年当時の愛知県による毛織物の品質検査について書かれた本です。検査方法や器具が紹介されています。合格品表示のデザインがかわいいですね。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
愛知の蔬菜		愛知縣立農事試験場	1919年	名古屋は、大根や白菜が特産だって知ってた？この本は、愛知県特産の野菜の沿革や栽培法を解説したもの。切り干し大根やトマトソースなど、加工のしかたも分かります。
伊藤圭介先生遺墨遺品展覧會記念		市立名古屋圖書館	[1937]年	伊藤圭介とは、幕末から明治にかけて活躍した、名古屋出身の理学博士です。この絵はがきは、伊藤の功績を世間に知らしめるため、昭和12年、市立名古屋図書館(現在の鶴舞中央図書館)にて開催された展覧会の記念品です。展覧会は好評を博し、後に市内各地に伊藤の銅像が建てられるきっかけになりました。鶴舞中央図書館の敷地内にも座像があります。
大型焼夷弾と闘ふ	名古屋市防衛部/編	名古屋市防衛部	1943年	ドーリットル空襲を経た昭和18年2月19日、大型焼夷弾による空襲に備え実験が小牧飛行場で行われました。この資料は、実験に関わった軍部や専門家、消火を体験した隣組の人たちの座談会記録です。隣組が大型焼夷弾の被害を抑えるに当たっての指導書として利用されることを切望する、と序文に書いてあります。「大型焼夷弾、決して怖るべきでない」という言葉が時代を表しています。
尾張名所独案内	浅井広国/著	中村浅吉	1893年	明治26年当時発表されていた尾張の図絵は、その多くが事実に基づかない想像の姿を描いていました。編者は実際に土地を訪れて、古老に尋ね旧記を紐解き、尾張の正しい姿を世の中に伝えようとしています。挿絵も多く、この本を手にとると明治中期の尾張名古屋が色鮮やかによみがえるようです。
憶ひ出	名市立二高女第二十九回卒業生/編輯	名古屋市立第二高等女學校第二十九回卒業生	1940年	昭和15年に発行された、名古屋市立第二高等女學校の卒業アルバムです。甘酸っぱい「憶ひ出」がたくさんつまっています。図書館では、数は少ないですが明治～昭和初期の卒業アルバムも郷土資料として所蔵しています。ご親族やお知り合いに関する情報集めなどにお役立てください。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
音楽時代 創刊号		音楽時代刊行所	1930年	名古屋で発刊された戦前の音楽雑誌です。デザインがとってもおしゃれ！全国の音楽界の様子が紹介される一方、名古屋の楽団の活動や名古屋で行われた音楽公演についても紹介されています。
御大典奉祝拾周年記念名古屋秋香會々報		名古屋秋香會	1929年	昭和3年11月に名古屋市東区役所で行われた菊の品評会の様子がわかる資料です。一言に菊といっても様々な形があり、いろいろな美しさがあることとモノクロ写真からわかります。
幹線なごや 創刊号	名古屋幹線工 事局幹線なご や編集部／編 集	名古屋幹線工 事局	1960年	東海道新幹線の建設工事のため、名古屋駅に設けられた「名古屋幹線工事局」。東京オリンピックまでに完成させるため、準備から始めて用地買収、設計、工事を5年間で行いました。『幹線なごや』は全国から集められた職員の親睦を図る機関誌で、それぞれの現場で仕事がどのように進められていたのかがわかるだけでなく、その生活ぶりや心意気まで伝わってくる本です。
管内逓信事業一覧		名古屋逓信局	1924年	愛知・三重・岐阜・長野・福井・石川・富山の7県の郵便や電話等を管轄していた名古屋逓信局がまとめた資料です。各業務の創始からの経緯に加え、統計が掲載されています。この統計が面白い！増減が絵の大小で表現されているのです！！
気象報 第174号		愛知縣測候所	1904年	明治37(1904)年10月の名古屋の気温や日照時間など気象についての詳しいデータが書かれています。月内の最低気温は三度、最高気温は二十六度とあります。100年以上前の名古屋の気象情報がわかる貴重な資料です。
金城商報 第121号		金城ゴム商會	1930年	金城ゴム商會が出していた商品カタログです。ページをめくると、昭和初期の商店の店先を見ているようです。ゴム底靴、ゴム手袋などは、現在の商品と比べてもあまり違いがありません。自転車なども意外とあまり変わらないように思います。珍しいものではランニング地下足袋というものが載っています。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
校歌総覧 新版		東洋経済出版者	1986年	「懐かしの校歌の歌詞をどうしても思い出せない…！」そんな時に使えるのが、この本。愛知県内にある公立小中高等学校の校歌の歌詞や楽譜が掲載されています(楽譜は掲載されていない学校もあります)。
滑稽川柳轉愚集		大口六兵衛	1881年	明治時代に出版された川柳の本です。かわいいイラストも載っているので、くずし字が読めなくても楽しめます。タイトルの「轉愚」は「てんぐ」と読みます。ということは、表紙に描かれているのは…？出版者の大口六兵衛は、名古屋におけるジャーナリストの草分け的存在です。
回数閲覧券 市立名古屋図書館			[192-]	現在は図書館法第17条により無料で使える公共図書館ですが、かつては閲覧料がかかりました。これは市立名古屋図書館の回数閲覧券です。30回分で50銭、現在の金額に換算すると約1万円(諸説あります)。高いとみるか安いとみるか？この回数券綴りには券が13枚残っています。
御案内		丸榮	[1943]年	平成30年に惜しまれつつ閉店した老舗百貨店「丸榮」は、昭和18年に「十一屋」と「三星」が合併して誕生しました。これはそのときの開店を知らせる案内状です。紳士服や肌着などデパートらしい品物も書かれていますが、「空襲を用意せよ!」「防空用品」などの言葉が、戦時下であることを強く感じさせます。
五中會々報 第3號		五中會	1938年	五中とは旧愛知県立第五中学校。後に愛知県熱田中学校に改称した、現在の県立瑞陵高校です。この資料は熱田中学校創立30周年を記念した紀要ですが、昭和12年5月16日に行われた記念講演が収録されています。「名古屋出身の明治の文豪二葉亭四迷について」の題で講演したのは、愛知県常滑市出身の哲学者で谷川俊太郎の父である谷川徹三。そして江戸川乱歩による「探偵小説漫談」なる講演も!
四季のつきだし集 粹選 中京の珍味		愛知県調理技術研究会	1952年	四季折々の旬の食材をつかった「つきだし集」です。春夏秋冬のそれぞれの部にわかれており、簡単に作り方も書かれています。『愛知縣飲食料品類卸、小賣公定協定價格表』も一緒に見ると当時の食材や料理方法がわかります。時代を感じる旅館や名品店の広告も必見です。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
児童新聞 第428号3年用		児童新聞社	1929年	昭和4年に発行された児童向けの新聞です。一面の見出しには「ばくだん」という怖い文字が。有事に備えて防空演習を行っていた様子が生々しく紹介されています。「あさがほ(朝顔)」「てんらんくわい(展覧会)」など旧仮名づかいが時代を感じさせます。他学年向けの新聞もあるので、読み比べてみると面白いです。
児童のためになる読書週間おはなしの會		市立名古屋図書館	1926年	1926(大正15)年の市立名古屋図書館(鶴舞中央図書館の前身)での、おはなしの会のチラシです。呼びかけの文章から大正のかおりがします。おはなしのタイトルと並んで、おはなしする人の名前が載っているのが今と違うところでしょうか。市立名古屋図書館が開館したのは、1923(大正12)年。開館間もないころの児童室のにぎわいが想像できます。
市民徒歩旅行の葉		名古屋市厚生局	[1940]年	1940(昭和15)年、名古屋市厚生局が出していた「市民徒歩旅行の會」のしおりです。今でも参考になりそうな散策コースが並んでいます。「八事山」コースなどはじつに10軒(キロメートル)!
車輛案内		日本車輛製造	1925年	日本車輛製造は、明治29(1896)年に名古屋にできた鉄道車両の製造会社。この本には、この会社でつくられた機関車・電車の車両のほか、工場の様子がわかる絵が載っています。鉄道好きにはたまらないかも?
職業科綱要 昭和14年版	名古屋市電気局青年学校／ 編纂	名古屋市電気局青年学校	1939年	主に未成年者の電車車掌と電車車掌助手が就学した、名古屋市電気局青年学校の職業科綱要です。電車・電気に関する知識や車掌の心得、郷土に関する知識などが書かれています。郷土各所の説明では「皆様これが市立図書館で御座います。」などから始まるアナウンス口調の文章で、臨場感たっぷりです。
新愛知年中便覧		新愛知新聞社	1914年	中日新聞の前身の1つである新愛知新聞の、大正3年1月1日の附録です。月毎の家庭暦には、その月の行事やおすすめの料理、注意すべき病気のほか、「第五の木金両日雨降らぬ時は六月第一金土曜日風雨」といった大胆な天気予想などが載っています。ほかに今も気になるページは「洗濯しみ抜の秘法」でしょうか。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
瀬戸電鐵沿線御案内		瀬戸電気鐵道	[出版年不明]	大正初期に作成されたと思われる瀬戸電(現・名古屋鐵道瀬戸線)の沿線ガイドです。全線を描いた鳥瞰図には、沿線の名所の他、当時計画されつつも実現しなかった幻の龍泉寺線(小幡～龍泉寺)も描かれています。
戦時下に於ける馬鈴薯の食べ方 並に貯藏法		名古屋市産業局消費經濟部	[194-]	戦時中に出された、米の代用食としてジャガイモを推す案内です。「馬鈴薯カレー」は当時からカレーにジャガイモを入れていたんだなと思いつつ読んでいたら、お米のごはんの代わりに潰したジャガイモにカレーをかけるというものでした。紙質もあまりよくなく、当時の情勢がうかがえます。
大名古屋運河祭		[出版者不明]	[1937]年	昭和12(1937)年8月1日に中川運河で開催されたお祭りの写真集です。児童剣道大会・ボートレース・児童相撲大会が行われ、盛り上がった様子が伝わってきます。
大名古屋行進曲		新愛知	[1931]年	新愛知新聞社が名古屋市民に贈った名古屋の歌3曲が掲載されたパンフレットです。多くの流行歌を生み出した西條八十作詞・中山晋平作曲の「大名古屋行進曲」の他、「新名古屋小唄」「名古屋小曲」の歌詞・楽譜が載っています。名古屋城や熱田神宮が高らかに歌い上げられています。
第六回東海陸上競技選手権大會兼第十九回全日本陸上競技選手権大會東海豫選會兼第十回萬國オリンピック大會第一次東海豫選會	[著者不明]	[出版者不明]	[1932]年	『鶴舞公園運動場開場記念競技大會番組』が行われた翌日に鶴舞公園運動場で行われた競技会の資料です。第10回万国オリンピック大会第一次東海予選會も兼ねており、第10回のオリンピックに出場した選手の名前を見ることができます。
多賀良富禰宝帳 昭和丁酉年		[出版者不明]	1957年	“多賀良富禰”と書いて“たからぶね”と読ませます。商売繁盛を祈って描かれた宝船が50点弱。中には酉年にちなんだデザインもあり、見て楽しい画集となっています。昭和丁酉年は、昭和32(1957)年。巡り巡って平成29(2017)年の干支も丁酉年です!
地下鉄のしおり		名古屋市交通局	1967年	1967(昭和42)年、名古屋一星ヶ丘間は「東西線(第1号線)」、市役所一金山間は「南北線(第2号線)」とされていたころのしおりです。この2年後の1969年、それぞれ愛称が「東山線」「名城線」となりました。まだ久屋大通駅はありません。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
中元御贈答品の葉	[十一屋]		[19--]	お中元の贈答品を選べるカタログです。呉服類から食料品まで様々なものを取り揃えていることがわかります。背広上衣は27円、十八金指輪が8円など当時の物価の様子もわかります。
中等學校入學試験問題集 昭和2年度		愛知師範同窓會	1927年	今から90年以上前、中学校が義務教育ではなかった時代の入試問題集です。国語と算術(算数)の2科目が収録されています。王道の楽しみ方としては、やはり実際に解いてみることでしょう。
鶴舞公園運動場開場記念 競技大會番組	[著者不明]	[出版者不明]	[1932]年	昭和七年四月に開設された鶴舞公園運動場開場記念の競技大会の資料です。陸上競技だけでなく、サッカーやホッケー、ラグビーなども行われたようです。
名古屋映画演藝案内 創刊 號		名古屋映画演藝協會	1931年	第二次世界大戦前の名古屋の人たちはどのような映画を見ていたのでしょうか。シネマコンプレックスのなかった時代、名古屋にはいろいろな映画館があって、それぞれ特徴ある映画を上映していました。 この本は昭和6年名古屋の映画館(たくさんあります!)の上映案内です。週刊、というところに、映画文化の華やかさを感じます。
名古屋驛の今昔		名古屋鐵道局	1937年	JRセントラルタワーズ以前の名古屋駅について書かれた資料です。昭和12(1937)年2月1日から営業を開始するにあたって発行されました。明治19(1886)年3月に開業した当時の駅についてや、新駅の工事過程・設備等について書かれています。案内図が付されており、地下には浴場もありました!
名古屋観光案内	名古屋観光協會/ 編	名古屋観光協會	1933年	昭和8年発行の名古屋のガイドブックです。市内を効率的に回るためのスケジュールがくまっていたり、昼の名所だけでなく夜の盛り場やその楽しみ方を紹介したり、方言案内、民謡集などが組まれていたり、新しい試みに挑戦した画期的な本です。現在のガイドブックでは取り上げない試みもありますね。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
名古屋市廳舎新築工事寫眞帖		大倉土木株式会社 名古屋出張所	[1933]年	平成26年に愛知県庁本庁舎とともに国の重要文化財に指定された、名古屋市役所本庁舎。その工事の様子や完成直後の姿がわかる写真帖です。
[名古屋市東角町広告 マッチ中京マッチ社謹製 マッチラベル貼込帖]	[製作者不明]	[製作者不明]	[製作年不明]	昭和初期に名古屋市中区東角町にあった中京マッチ社のマッチラベルコレクションです。ラベルは、色とりどり、デザインもさまざま、まるで小さな芸術作品のようです。
名古屋市警察史	名古屋市／編	名古屋市	1960年	昭和23(1948)年から昭和30(1955)年の約7年間、戦後の混乱期の名古屋で組織されていた名古屋市警察の記録です。犯罪捜査や交通指導、音楽隊による防犯広報などの警察活動の他、当時の警察官の服装や車両などの装備の写真が掲載されています。
名古屋市消防の十年		名古屋市消防局	1958年	昭和23(1948)年に名古屋市消防局が発足してから十年の歩みがまとめられています。災害や事故の対応、訓練などの様子がわかります。当時の消防車や救急車は、今見るとクラシックな趣が感じられますね。
名古屋市鳥観図	吉田初三郎／ [著]	汎太平洋平和博覧会	[1936]	吉田初三郎氏の美しい鳥観図です。名古屋城や名古屋駅のほか、鶴舞公園には図書館の姿も描かれています。裏面は名古屋市名勝案内となっており、鶴舞公園は全国有数の欧風式公園と紹介されています。
名古屋市鶴舞中央図書館 建築関係写真集	名古屋市鶴舞 中央図書館／ 編	名古屋市鶴舞中央 図書館	1986年	昭和59(1984)年に開館した、鶴舞中央図書館の建設当時の記録です。工事時の写真と完成直後の写真を見ることができます。同じ建物だけど、現在とは違っているところもたくさんあります。懐かしい鶴舞中央図書館に会えますよ。
名古屋渋ビル手帖 創刊号	名古屋渋ビル 研究会／編集	名古屋渋ビル研究会	2014年	「渋ビル」とは、街で見かける1950～70年代に建築された、とても有名というわけではないけれど、渋くてカッコいいビルのこと。名古屋にある「渋ビル」を窓の形や外壁のタイル、入り口のサインなどの見どころと合わせて紹介されています。この本を読めば、普段何気なく見過ごしている身近なビルもこれまでと違って見えるかもしれません。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
名古屋市立鶴舞公園附属動物園要覧 昭和3年	名古屋市立鶴舞公園動物園／編	名古屋市鶴舞公園動物園	1928年	昭和12(1937)年に東山動物園へ移転するまで、鶴舞公園には動物園がありました。創設の経緯や園内の動物一覧が掲載されています。現在、跡地には入口の門柱だけが残っています。
名古屋宝塚劇場新築工事概要		竹中工務店名古屋支店	1935年	昭和10年(1935)に広小路通に開館した、名古屋宝塚劇場の建設当時の姿を知ることができます。およそ2000名の観客を収容できる劇場の他に、スケートリンク、食堂、冷暖房設備、エレベーターなどを備えた5階建ての近代的なビルでした。
名古屋テレビ塔		名古屋テレビ塔	[1954]年	名古屋テレビ塔完成時に発行されたパンフレットです。建設現場や工事中の写真、塔内案内図等が掲載されています。当時の入場料は大人1人10円、展望台料金は同50円でした。
名古屋電気鉄道沿線案内		名古屋電気鉄道	1914年	大正3年(1924年)に出版された、名古屋や周辺都市の観光ガイドブックです。名古屋電気鉄道は今の名古屋鉄道の前身で、明治31年(1898年)に開通した後、市内だけでなく、犬山や津島方面にも線路を伸ばし、多くの人々から利用されました。このガイドブックはその沿線にある名勝旧跡を紹介しています。
名古屋と伊勢		博文館	1902年	『文芸倶楽部』定期増刊号で名古屋の気風や舞踏、遊戯や紙鳶など幅広い情報が掲載されています。また、旅行の菜として、名古屋から主要都市への行き方、旅行者の心得やお弁当が売られている駅など面白い情報が満載です。
なごやの歌	名古屋市観光団体連絡協議会／編集	名古屋市観光団体連絡協議会	1970年	ポケットにすっぽり収まるかわいらしい歌集です。「『名古屋には歌がない』とよくいわれる」ことをきっかけに、昭和45年に刊行されました。収録された歌のジャンルは多様で、『名古屋市歌』などかための歌から、『名古屋パチンコ娘』などタイトルを聞いただけで楽しくなるような流行歌までさまざまです。中でも昭和40年に地下鉄名城線開通を記念して作られた『若いサブウェイ』は、「ああロマンチック名古屋地下鉄(サブウェイ)」など昭和感たっぷりの歌詞が郷愁を誘います。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
名古屋のしらべ 改訂増補版	水野時二／著	浜島書店	1964年	小学生向けに書かれた本でしょうか、昭和30年代当時の名古屋のまちがわかりやすく紹介されています。読んでみると、本に出てくる「たかおくん」や「みよこさん」たちといっしょに昔の名古屋のまちを探検している気分になります。
名古屋の電話 30万突破を記念して	日本電信電話 公社名古屋都 市管理部／編	電気通信協会東海 支部	1968年	名古屋に初めて電話線が開設された明治31年から昭和42年までの名古屋の電話の歴史がわかる資料です。名古屋に電話交換局が設置されることになったいさつや加入者数、料金、通信技術の変遷などが書かれています。また、明治31年の開設当初の番号一覧(名古屋最古の電話帳！)も収録されています。
名古屋八景詞	永坂石埭／漢 詩選	名古屋毎日新聞社 出版部	1925年	“金城の朝陽”や“名港の帰帆”、“鶴舞の晴雪”など、投票により選ばれた八つの名古屋名所。この八景を題材に、漢詩・和歌・俳句が詠まれています。
名古屋便覧 全	長江銈太郎／ 編輯	柳城社	1910年	こちらは明治42年に出版された名古屋の案内本です。序では「名古屋は我國の大都會、企業隆盛にして又史跡に富む。國民の一度は其足を停むべき地たる事謂ふまでもなし。」と熱く名古屋愛が語られています。名古屋城や熱田神宮などの名所旧跡や、交通・旅館・物産などの案内のほか、載っている企業広告も興味深いです。
名古屋松坂屋店内御案内		[松坂屋]	不明	松坂屋の各階情報がかわいいカードになっています！カードを開くと屋外から見た松坂屋の店舗が、ページをめくるとその階の絵地図が現れます。昭和12年の店舗を増改築完成した頃に発行したものではないでしょうか。
日本國勢調査記念録 第 三巻〈愛知縣〉		日本國勢調査記念 出版協會	1922年	大正9(1920)年の第1回国勢調査を記念して各地で作られた記念録のひとつです。調査員のデータや写真がまとめられています。国家の一大事業として調査を行う決意が伝わってきます。
日本陶磁器聯合會館新築 工事概要		日本陶磁器工業組 合聯合會	1934年	昭和9年に建てられた日本陶磁器連合會館(旧館)の様子がわかります。地上4階地下1階の建物で、正面の壁には日本陶業製のタイルを貼るなど陶業工業組合らしい建物でした。

書名	著編者名	出版者名	出版年	コメント
バイオリン王と織機王		名古屋市立東桜小学校	1957年	バイオリン王は東桜小学校の前身東新小学校の教育会長を務めた鈴木バイオリン工場の鈴木政吉、織機王は武平町に住んでいた豊田織機の豊田佐吉のことです。東桜小学校区にゆかりのある2人の偉人について、東桜小学校が開校10周年を記念して作成した伝記読み物です。
汎太博大会見物虎の巻 三日かゝるのを一日で廻る		汎太博ガイド社	1937年	昭和12(1937)年に開催された名古屋汎太平洋平和博覧会のガイドブック。会場のおすすめポイントを対談形式で紹介しています。人気のあるところを効率よく見てまわりたい気持ちは、今も昔も同じですね。
マッチ・コレクション・アルバム 第五回国民体育大会記念	三國屋ノ編集	名古屋広告協會	[1950]年	昭和25(1950)年に愛知県で開催された第5回国民体育大会を記念して作成されたものです。当時のお店の広告でもあったマッチの図案がクリッピングされており、今もあるあの会社やこのお店が見つかります。おしゃれなデザインも多い!
City of Nagoya and its environments		Municipal of Nagoya	1927年	当館で最も古い、英語のみで書かれた名古屋のガイドブックです。名古屋城が「The Nagoya Rikyu」(名古屋離宮)として紹介されていたり、「The Zoo」(動物園)の見出しでは東山ではなく鶴舞だったり…。昭和2年当時の名古屋への時間旅行ガイドブックとしておススメです。